

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：15501

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17555

研究課題名(和文) 妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適応していくプロセスと父親のケア・ニーズ

研究課題名(英文) The adaptation process and care needs of fathers who married following premarital pregnancy

研究代表者

河本 恵理 (Eri, Kawamoto)

山口大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号：90718339

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適応していくプロセスと父親のケア・ニーズを明らかにし、妊娠先行型結婚をした父親独自に必要な支援を明確にした。妊娠先行型結婚をした男性に対して、パートナーの妊娠判明後の男性の揺れ動く心理を理解し、父親になる決意を後押しする支援が必要である。また、妊娠中から父親になる準備が進むように支援することが必要である。さらに、児の出生早期から児と直接触れ合う機会を促し、妻と共に育児に取り組めるよう支援が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで妊娠先行型結婚をした女性を対象とした研究は散見されていたが、男性を対象とした先行研究はなされていなかった。本研究において、「妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適応していくプロセス」と父親のケア・ニーズが明らかになったことで、妊娠先行型結婚をしたカップルが親役割に適応するための統合的なケアとして、双方の親役割への適応プロセスを理解した上で、それぞれのニーズに沿ったケアを行うことができるようになると思われる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed: To clarify the adaptation of fathers who married following premarital pregnancy, To identify his care needs and To clarify methods of support for them. Semi-structured interviews were conducted with 3 fathers who married following premarital pregnancy of infants aged 1-2 years old. Data were analyzed using a modified grounded theory approach, and categorized fathers' care needs according to similarity of meaning contents. The study suggest that nurses need: To support that men can decide to become fathers after finding out his partner's pregnancy, To support them to prepare for becoming fathers during his partner's pregnancy, and To support them to interact with their baby soon after the birth and to take care of their baby with their wife.

研究分野：助産学

キーワード：妊娠先行型結婚 父親役割 ケア・ニーズ

## 1. 研究開始当初の背景

平成 21 年 (2009 年) 厚生労働省人口動態統計特殊報告<sup>1)</sup>によると、結婚期間が妊娠期間より短い出生が嫡出第一子出生に占める割合は 25.3%であり、第一子をもつ父親の 4 人に 1 人は妊娠先行型結婚を経験している。

妊娠先行型結婚をしたカップルに関する先行研究は少なく、母親を対象としたものが散見されるのみである。先行研究によると、妊娠先行型結婚をした女性は結婚後に妊娠をした女性に比べ、「産後の体型への変化が不安である」「育児が自分でできるか不安である」など妊娠中の母性不安度が高いことが明らかになっている<sup>2)</sup>。さらに、25 歳未満の妊娠先行群妊婦の児への愛着的な感情は、結婚後妊娠群よりも優位に低いことが明らかになっている<sup>3)</sup>。これらのことから、妊娠先行型結婚は母親役割獲得に大きな影響を与えている。

一方、結婚後に妻が妊娠・出産した夫を対象とした父性の発達に関する先行研究によると、妊娠期の妻をもつ男性の約半数は、妻の妊娠中、父親になるという現実的な意識が芽生えていない<sup>4)</sup>といわれており、男性が親になる過程は女性に比べ困難であることが考えられる。このような中、妊娠先行型結婚をした男性は、結婚後に妻が妊娠した男性に比較して、親になる過程がさらに困難であると推察される。

しかし、妊娠先行型結婚をした男性を対象とした先行研究は見当たらず、妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適應するプロセスや父親のケア・ニーズは明らかになっていない。

近年、女性の社会進出や少子化・核家族化により、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという固定的性別役割分担意識は変化しており、男女共同養育の意識が求められている。また、父親の育児行動は、母親の満足感や育児不安の軽減に繋がること<sup>5)</sup>、子どもの社会性の発達に影響を与えること<sup>6)</sup>が明らかになっている。そのため、父親が母親と共に育児を行う意義は大きく、妊娠先行型結婚をした男性の父性の発達を明らかにすることや父親になることを促進するためのケアについて検討することが必要である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適應していくプロセスを明らかにすること、(2)妊娠先行型結婚をした父親のケア・ニーズを明らかにすることである。そして、(3)妊娠先行型結婚をした父親独自に必要な支援を明確にする。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究における用語の操作的定義

「妊娠先行型結婚」とは、妊娠判明後の結婚(入籍)とした。また、「父親役割」とは、父親であることを自覚し、父親としての行動をとることとした。

(2) 研究デザイン

質的帰納的記述研究

(3) 研究対象者

妊娠先行型結婚をし、合併症のない 1 歳～2 歳未満の第一子をもつ父親で、本研究の趣旨に賛同し、協力が得られたものとした。なお、夫役割や心理的な要因、子どもとの長期間の分離や子どもの合併症の有無によって様々なパターンの父親役割への適應過程があると予測されるため、インタビュー時点で妻と婚姻関係にないもの、精神疾患を有するもの、子どもが多胎・早産児・低出生体重児であるものは本研究の対象から除外した。研究協力の得られた小児科クリニック、助産所からの紹介およびスノーボールサンプリングを用いて、対象者をリクルートした。

(4) 調査項目

研究者対象者の属性(対象者・妻・子どもの年齢、結婚年齢、妊娠判明後から結婚(入籍)するまでの期間、妻との同居開始時期、職業、最終学歴、妻の里帰り出産の有無・期間、分娩様式)については質問紙より収集した。その後、妻の妊娠前から育児期に至るまで間の、父親役割への適應に影響を与えたできごとについて、インタビューガイドを用いた 40～60 分の半構成的面接を実施した。インタビューガイドは、妻の妊娠前における結婚・妊娠に対する思い、妻の妊娠が分かった時の状況とその時の思い、妻の妊娠中の状況とその時の思い、妻の分娩時の状況とその時の思い、育児期の状況とその時の思い、父親としての自覚が芽生えたきっかけ、自分の考える父親像、医療者に対するケアへの要望とした。面接内容は研究対象者の同意を得て、IC レコーダーに録音した。

(5) 分析方法

「妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適應していくプロセス」については、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いて分析した。また、父親のケア・ニーズは、意味内容の類似性に従ってカテゴリー分類した。分析の際には、質的研究および M-GTA の研究指導に携わっている助産学研究者よりスーパーバイズを受け、研究者同士の解釈が一致するまで分析を続けた。また、実践的グラウンデッド・セオリー研究会に参加し、分析精度の向上に努めた。

## 4. 研究成果

### (1) 研究対象者の背景

3名より研究同意が得られ、データを収集した。研究対象者の平均年齢 23.7±2.9 歳、妻の平均年齢 25.7±4.6 歳、子どもの月齢 18.7±5.1 か月であった。3名とも妻は経膈分娩であり、全員、妻の分娩に立ち合っていた。妻が里帰り出産した者は2名であり、いずれも里帰り期間は産後1か月間であった。

### (2) 「妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適応していくプロセス」

M-GTA を用いて分析した結果、5つのカテゴリーと19概念が抽出された。概念を【 】, カテゴリーを で表し、ストーリーラインを以下に記載する。

パートナーから妊娠判明を打ち明けられた男性は、【妊娠が判明した嬉しさ】と同時に収入面など【家族を支えることへの不安】、【パートナーや親への申し訳なさ】を抱き、妊娠が判明して嬉しさ半分・不安半分 の状態にあった。

【パートナーの産みたいという想い】や【親による妊娠の受け止め】により、父親になる決意 を固めていた。また、【家族を支える】ため、未成熟な生活基盤を整え ていた。

妻の妊娠中、妊婦健診でのエコー写真や妻の体の変化を通して、【我が子の存在を実感】し、両親学級等での育児体験を通して【父親になる準備】を進めていた。児の出生後は【我が子に会えた嬉しさ】を感じ、抱っこなど直接触れ合う体験を通して【我が子が愛おしい】と感じていた。また、分娩中、陣痛に耐える【妻を心配】し、分娩後は【妻への感謝】の気持ちを抱いていた。

【妻と共に育児を行う】中で【父親になった実感がわ】き、【育児の大変さを実感】し、【我が子・家族優先の行動】をとるようになっていた。さらに、子どもと過ごす中で【我が子の成長を実感】し、父親としての意識の高まり がみられた。

自分の父親や母親から受けた関わりを振り返って【父親像を形成】し、【我が子の将来をイメージ】しながら 父親としてのアイデンティティ形成 を図っていた。

妊娠先行型結婚をした男性は、パートナーや周囲からの後押しにより父親になる決意を固めていたことが明らかになった。また、妻の妊娠中から父親になる準備を進めていた。児の出生早期からの我が子と直接触れ合う体験や妻と共に育児に取り組む中で、父親としての意識の高まりがみられていた。

### (3) 妊娠先行型結婚をした父親のケア・ニーズ

妊娠先行型結婚をした父親のケア・ニーズについて分析した結果、2つのカテゴリーと6つのサブカテゴリ に分類された。父親のケア・ニーズには、父親になる決意を後押しするケア 、父親としての意識を高めるケア があった(表1)。

表1. 妊娠先行型結婚をした父親のケア・ニーズ

カテゴリー	サブカテゴリ
父親になる決意を後押しするケア	パートナーの妊娠を受け止めてほしい
	父親になる気持ちを後押ししてほしい
父親としての意識を高めるケア	妻の妊娠中からの育児体験
	妻と共に父親にも育児指導をしてほしい
	父親も育児に取り組める環境づくり
	育児中の他の父親との交流

### (4) 妊娠先行型結婚をした父親独自に必要な支援

妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適応していくプロセスとケア・ニーズを明らかにした結果、父親独自に必要な支援は以下の通りである。

パートナーの妊娠判明後の男性の揺れ動く心理を理解し、父親になる決意を後押しする支援が必要である。

妊娠中から父親になる準備が進むように支援することが必要性である。

児の出生早期から児と直接触れ合う機会を促し、妻と共に育児に取り組めるよう支援が必要である。

### (5) 今後の展望

これまで妊娠先行型結婚をした女性を対象とした研究は散見されていたが、男性を対象とした先行研究はなされていなかった。本研究において、「妊娠先行型結婚をした男性が父親役割に適応していくプロセス」と父親のケア・ニーズが明らかになったことで、妊娠先行型結婚をしたカップルが親役割に適応するための統合的なケアとして、双方の親役割への適応プロセスを理解した上で、それぞれのニーズに沿ったケアを行うことができるようになると思う。

本研究で得られた知見と研究代表者らが過去に取り組んだ「妊娠先行型結婚をした女性が母親役割に適応するプロセス」の研究成果を基に、今後、「妊娠先行型結婚をした夫婦へのケアプログラムの構築」を目指す。

## <引用文献>

- 1) 厚生労働省 . 平成 22 年度「出生に関する統計」の概況 人口動態統計特殊報告 <  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyuu/syussyo06/syussyo2.html#02>>

- 2) 近藤由佳里, 大庭智子, 他. 「できちゃった結婚」妊婦における母性不安と母性意識・愛着形成について - 計画妊娠の初産婦と比較して - . 母性衛生 . 2005, 45(4), 518-529.
- 3) 盛山幸子, 島田三恵子 . 妊娠先行結婚と妊婦の対児感情・母親役割獲得・夫婦関係との関連 . 日本助産学会誌 . 2008, 22(2), 222-232 .
- 4) 村上由希子, 内山忍, 川越展美, 他 . 妻の妊娠期における父性性(第1報)父性性を構成する要因 . 母性衛生 . 1995, 36(2), 250-258 .
- 5) 神原文子 . 子育てと夫婦の関係 . 教育と医学 . 2000, 48(8), 43-49 .
- 6) 橋本泰子 . 大学生における父親との愛着関係と社会性に関する一考察 - 愛着尺度・EQT/SWT/WZT - . 心理学研究 . 2011, 1, 92-103 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------